

## 目的

2018年度にSDGs未来都市に選定された長崎県壱岐市の「住みつけたいまちづくり運動」は、中学生が2030年の地域の姿を想像し、その姿を実現するにはどうしたらよいかをバックカスティングで考え活動するプログラムである。

中学生へのワークショップ実施による意識改革・行動変容を促す直接効果と、中学生の活動を通して地域住民(大人)をナッジ\*する間接効果により、住民が自分たちの地域の未来を真剣に考え、地域の活性化を図ることを目的としている。



\*ナッジ：「ひじて軽く突く、そっと後押しする」という意味で、気付きを与え、人々が自発的に望ましい行動を選択するよう促す仕掛けや手法を示す。

## 方法

**教育対象** 中学1年生  
**授業回数** 5回(計9時間)+夏休みの活動+最終発表会  
**授業形式** ワークショップ(グループワーク)

第1回	「住みつけたいまちを考える」
第2回	「住みつけたいまちにするための計画を立てる」
夏休み	「大人の意見を聞く」 「住みつけたいまちにするための活動をはじめる」
第3回	「夏休みの活動成果を整理する」
第4回	「活動成果を伝えるための資料を作る」
第5回	「活動成果をみんなに伝える」
最終発表会	授業参観等で大人の前で成果を発信

全5回の授業は、バックカスティング思考に基づいた構成としている。望ましい未来の姿を描き、その姿から現在を見て課題を発見し、計画を立て、実行するという流れを順に進めることで、より高い目標の実現を目指す。

夏休みの活動では、生徒達が計画を進める上で生じた疑問を、市役所や地域のお店の大人に聞きに行くことで、大人自身が地域課題に目を向け、行動に移すことを促す。

## 授業の進め方

ワークショップ形式で授業を進めるための教材として、第1回～第5回授業の内容を一冊にまとめたワークブックを使用する。グループで話し合った内容を随時書き込むことで、前後の流れを踏まえながら議論を進めることを可能とした。

「住みつけたいまち」の姿を考える際は、環境・経済・社会に関する9種類のテーマカードから、チームで一つのテーマを選び、付箋や模造紙を使いながらアイデア出しを行う。

第5回授業では「SDGs活動宣言」を作成し、チームで考えてきたテーマに沿って、今後一人ひとりが活動していくことを宣言することで、持続的な行動変容につなげることを狙う。

### 使用教材



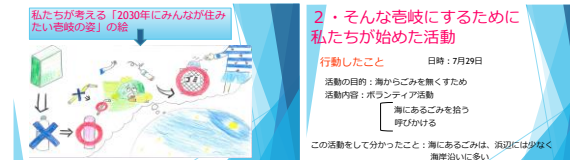
### 授業の様子



付箋と模造紙を使ったアイデア出しの様子

## 発表資料の例 (抜粋)

発表会では、各チームが描いた将来のまちの姿と、そんな姿にするために始めた活動について紹介した。

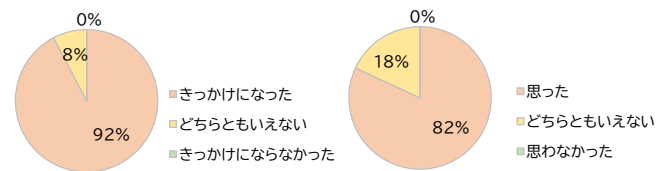


## 結果

中学生からインタビューを受けた大人へのアンケート結果や、プログラム実施後に中学生や大人にヒアリングした結果から、本活動による中学生への意識改革・行動変容の直接効果、及び周囲の大人をナッジする間接効果の双方を確認できた。

### 中学生からのインタビューを受けた大人へのアンケート

Q. 子供達からのインタビューは、壱岐の未来を考えるきっかけになったか  
 Q. 子供達からのインタビューを受けて、自分でも何か行動しようと思ったか



### プログラム実施後の感想



中学生

- SDGsには自分たちにできることがある。大きな目標ではなく、小さな目標をコツコツとやっていこうと思う
- 地域のことが良く分かった、もっと深く知りたいと思った



大人

- 子供の活動を知って、地産地消やごみを少なくするなど、自分でできることからやろうと思う
- 正直SDGsって何やる位のところだったので、あらためて子供に教えてもらおうと思った



学校の先生

- SDGs教育を通して、生徒自らが自分で気付き、自分で動くように、主体的に行動するように変わった
- 自分自身も生徒に触発され、SDGsに関する研修を受講するなど、SDGsに関する意識が高まった



自治体職員

- 中学生の柔らかい頭で考えたことを、少しでも何らかの取り組みに取り入れたいと思った
- 中学生が市の将来について考えることはすごく大事なことだと思う。中学生の想いを聞いて良かった